

1. 2 建設汚泥の発生工法と性状

泥水式シールド工法、連続地中壁工法、場所打杭工法等、地下掘削面の崩壊防止または掘削土の流動化排土のために泥水を用いる工法などから建設汚泥が生じる。建設汚泥の性状は工法によりおおむね特徴づけることができ、自硬性汚泥と非自硬性汚泥に分類できる。

【解説】

建設汚泥の性状に合せた分類を表1-2に示す。

表1-2 建設汚泥の分類

分類		性状	主な発生工法
非 自 硬 性 汚 泥	泥水状汚泥	含水比が高く、機械式脱水により減量化が可能である。	・泥水式シールド工法 ・連続地中壁工法 ・アースドリル工法
	泥土状汚泥	含水比が比較的 low、機械式脱水が困難である。	・泥土圧シールド工法 ・アースドリル工法
自硬性汚泥		セメント等が混入しており、放置すれば固結する。	・高圧噴射攪拌工法 ・ソイルセメント壁工法 (SMW工法等)

水などを用いる工法から生じた泥状物は、表1-2のとおり汚泥に区分されるが、水などを使用しない地山掘削工法から発生した泥土は、建設汚泥に該当しない。